

路線バス（大巖寺線～千葉駅と大巖寺エリアを結ぶ路線）の土休日便の復便が決定！

昨年4月、平日は30→16便、土休日は30→0便に減便となりましたが、市が「生活交通バス路線維持確保事業補助」の対象としたことや、新たに運転手が確保できたこと、地域として利用促進に取り組む意向が示されたことなどから、6月14日からの土休日便の一部復便が決定しました。（上記事業補助はこの2年、毎議会のように取り上げの中で新設され、今般初の執行となりました。）

南生実町エリアを通る路線、浜野-蘇我-千葉を結ぶ路線も

大巖寺線の復便は、（私自身求めてきた）市と地元関係者、バス事業者の3者で現状と課題を共有し、検討する中で実現しました。こうしたスキームを、減便が顕著な他の路線にも展開していくよう求めたところ、「他の地域におけるバスの持続性向上につなげていきたい」との答弁がありました。引き続き、当該路線の改善に取り組んでまいります。

※この他、運賃のサブスク（定額化）で利用促進に取り組む青森県弘前市の取り組みを紹介。路線バス維持のため、効果的な利用促進策を生み・育てる取組みの強化を求めました。



大巖寺のバス停

TOPICS ヒップホップダンサーが学校（蘇我中学校、登戸小学校）に！

子どもたちに一流の文化芸術に触れる機会を提供する文化庁の「学校巡回公演事業」の一環で、5月6月とプロのヒップホップダンサーによる体験ワークショップ、ステージ鑑賞会が行われました。

私の知人の紹介で#NPO法人カルティバイトさんと出会い、その後、千葉市教育委員会につなげたのが本年1月。学校関係者のご尽力により、この度の運びとなりました。

好き嫌いや出来る出来ないを越えた教育要素満載のワークショップは、子どもたちも先生方も大盛り上がりの90分。後日に行われたステージ鑑賞会も本当に感動的でした。ダンスは学校の授業で必修化されているほか、オリンピック種目（ブレイキン）にもなったことから、良い教育機会になったと思います。

※ダンサーを含め約20名のスタッフ。前日から搬入された機材にも圧倒されました。学校関係者の皆さまには、こうした機会を大いに活用して頂きたいと思いました。



ステージを鑑賞@蘇我中



NPO代表、校長先生と@登戸小

中小企業者の皆さま エネルギー価格等高騰対策支援金(5万円)

第3弾

申請はお済みですか？ 申請期限は8月29日(金)。詳しくは事務局(043-227-2260)まで！



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14 **Tel.090-2910-3925**

ホームページは「酒井伸二」で検索ください！ <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@outlook.jp

さかい通信 2025 夏号



千葉市の子育て支援策が一層の充実へ

保育料の多子軽減制度が拡充！(令和7年9月から)

認可保育施設における多子世帯の保育料について、生計が同一のお子さんが2人以上いる場合、軽減対象施設の在籍の有無や兄妹の年齢に関わらず、第2子の保育料が半額、第3子以降の保育料が無料となります。（右表参照）

対象者は、千葉市在住で対象施設の0～2歳児クラスに在籍している、世帯の第2子以降の子。第1子の年齢や世帯の所得は問われません。また対象施設は認可保育施設ですが、千葉市に在住しているお子さんが、市外の認可保育施設を利用する場合も対象となります。その他詳細は、千葉市のホームページを参照ください。

拡充イメージ		現行	拡充後
第1子	小学生以上	カウント対象外 (小学生以上の児童)	第1子としてカウント
第2子	認可外保育施設等	カウント対象外 (認可外保育施設を利用する児童)	第2子としてカウント → 保育料を助成
第3子	認可保育施設	第1子としてカウント → 保育料全額	第3子としてカウント → 保育料無料

多胎児家庭の支援も拡充！

【産後ケア事業における利用上限日数が拡大】

産後ケア事業において、希望する産婦がより利用しやすい制度とするため、10月より、自己負担額が減額（市民税課税世帯の自己負担額を20%から10%に、市民税非課税世帯は10%から5%に）されるとともに、多胎児について利用上限日数（回数）が拡大（7日（回）から10日（回）に）されます。

【パーキング・パーミット障害者等用駐車区画利用証制度の利用期間が延長】

パーキング・パーミット制度とは、公共施設や商業施設などに設置されている障害者等用駐車区画を必要とする、障害者、介護が必要な高齢者、妊産婦、けが人など、歩行が困難又は移動に配慮が必要と認められる人に利用証を交付することにより、同区画の適正利用を図る県の制度です。

これまで多胎妊産婦（双子、三つ子などの妊産婦の方）の利用期間は出産予定日から1年となっておりましたが、**7月1日より「出産予定日から3年」に延長**されました。



一年前の議会質問の成果！

昨年6月の議会質問では「多子世帯向けの支援」について取り上げ、「**第二子、第三子の定義の見直し**」や「**多胎児家庭への支援の拡充**」「**パーキング・パーミットの利用期間の延長**」を求めました。特にパーキング・パーミットは、千葉市から千葉県への働きかけはもとより、個人的に連携した県議会議員が県議会でも取り上げて頂き、この度の制度拡充につながりました。今後とも、皆さまの声を市政に届けてまいります。

令和7年 第2回 定例会 一般質問より

去る6月18日、市民の皆さまからお寄せ頂いた声をもとに、一般質問に登壇しました。
右の二次元コードから録画中継をご覧になれます。
是非ご覧ください。

録画放映はこちらから！→



防災施策の充実について

●分散避難の浸透に伴う対策強化を

昨年度実施した風水害被害想定調査では、指定避難所への避難者割合が約37%、自宅と親族・知人宅が約50%、車中泊が約5%と、指定避難所が減少し、自宅や車中泊等が増えるなど、コロナ禍以降、分散避難の考え方が広がってきました。そこで、在宅避難者への支援拠点や車中泊避難者向けのスペース設置について対応状況を伺うとともに、(昨年の議会質問で求め作成された)「分散避難パンフレット」(右写真)内容の一層の充実を求めました。

当局からは「指定避難所を在宅支援者への支援拠点と位置付け、車中泊避難者向けスペースは市内11カ所、約1,600台分の場所を確保している」「引き続き、多様な避難形態への支援体制強化に努めるとともに、パンフレットの内容の更なる充実を検討していく」との答弁がありました。

●災害時のトイレ対策の強化を

発災後にまず困るのはトイレと言われております。千葉市における避難所のマンホールトイレは全小中学校への設置が完了しましたが、未だ全避難所の6割弱であり、自助、共助による携帯トイレの備蓄など、災害時のトイレ確保の啓発強化が必要であります。また、昨年の議会質問では、令和9年度末までに予定している県立高校22校へのマンホールトイレ整備について、市内私立高校の指定避難所は中央区の明德学園1校のみであり、同計画に組み入れるよう求めました。それぞれ対応状況を問うたところ「家庭における携帯トイレの備蓄をより一層促進するため、多様な手段を活用して周知・啓発を図る」「施設管理者と調整を進めており、同校が保有する設備も踏まえ検討していく」との答弁がありました。

●ペットの同行避難の実効性向上を



啓発活動を計画している」との答弁があり、市が協定を市が協定を結ぶ車中泊避難先もペット同行可能であることから、その啓発も求めました。

2年前の質問ではペットの同行避難訓練を提案し、昨年、設営から受入までの手順を確認すべく実際に訓練が実施されました。(左写真)改めて避難体制の最新状況と今後の更なる取組みについて問いました。

当局からは「飼育場所とルールを決めている避難所が69カ所(内32カ所が屋内可)で、より具体対応を定めたマニュアルを改正し全避難所運営委員会に通知した」「風水害対策で受入避難所を各区1カ所確保する方向で調整中」「九都県市合同防災訓練で



JR蘇我駅周辺の活性化について

●地域コンテンツの活用を

「蘇我」最大の地域コンテンツ「ジェフユナイテッド市原・千葉」のホームタウンとして、これまでもバスシェルター等へのラッピングやアリーナまでの沿道に風車を掲出する活動などが行われてきました。今後は、蘇我副都心全体のにぎわい創出のため、フラッグ等の掲示を駅東口側に広げることを提案しました。

当局からは「更なる街の魅力向上につながると考え、可能な取組みを検討していく」との主旨の答弁がありました。

●大規模音楽フェスの活用を

開催が定着してきたJAPAN JAMとROCK IN JAPAN FESTIVALについては、「経済活性化や文化振興、地域の誇りの醸成にも寄与している」「新たな地域資源の一つにしていきたい」との過去の議会答弁も踏まえ、イベント開催時には音楽フェスのフラッグを掲示するなど、一層の活用を求めました。

当局からは「主催者や地域のステークホルダー等と連携し、新たな取組みを検討していく」との答弁がありました。今後の展開にご注目ください。



子どもルーム及びアフタースクールにおける長期休業期間中の昼食提供について

「毎日のお弁当づくりが大変」との声を受け、一昨年の議会質問で提案。昨年の夏休みからは市内全ての施設で弁当の配送サービスが始まりました。一方で「注文のタイミングが早すぎてあまり利用していない」との課題を指摘する声もあることから、当局の課題認識と今後の取組みを問いました。

当局からは「利用者は約3割で、こども用メニューの導入や価格の改善、柔軟な注文対応などを求める声を踏まえ、サービスのさらなる充実に向けて取り組む」との主旨の答弁がありました。

【後日談】議会終了後の7月、早速事業者から「(より安価な)低学年用メニュー」の導入を決定したとの連絡があり、この夏休みから利用可能となりました。注文締切は前週の水曜日となっておりますが、キャンセルは2日前まで可能です。是非ご利用ください。

登下校時の安全対策について ～学校防犯システム「ツイタもん」のその後は?～

ツイタもん(全児童にICタグを配布し、登下校状況を通用門に取り付けたカメラとセンサーで把握し、希望する保護者にはその都度メール配信するサービス)は、かつて議会で提案し令和2年度から全校展開する方針が示されておりました。市の財政負担なくメールサービスの登録料で運用される仕組みですが、学校の登下校管理としても大きな役割を果たすものです。3年前の議会答弁では「コロナ禍で備品の調達が滞ったことや、有料サービスの登録率が伸び悩んでいることから、設置は14校にとどまっている」とありましたが、改めて今後の対応を問いました。

当局からは「全107校の内53校で工事が終了しているが運用は14校のまま」「安全対策として一定程度の効果があることから、利用率の改善を図る」との答弁。53校まで整備されたインフラの活用を含め(地域の防犯意識の高まりも踏まえ)、今一度、総合的な安全対策のあり方を検討するよう求めました。

